

第6編

文化・交流・連携

文化を育み、交流と連携で

風格漂う魅力あるまちづくり

第1章 多彩な文化芸術の継承と創造

6-1-1 文化遺産の継承と活用

6-1-2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造

第2章 交流・連携、移住・定住促進による活力ある都市づくり

6-2-1 上田の魅力発信、選ばれる都市づくり

6-2-2 交流・連携促進による地域の活性化

6-1-1 文化遺産の継承と活用

地域の歴史・文化を知る機会を創出し、歴史的・文化的遺産の活用と継承に向けた取組を推進します。

現状と課題

- 文化財は将来の地域文化の向上発展の基礎となる貴重な財産であるため、これらを適切に保護して次世代へ引き継ぐ必要があります。
- 文化財の保存にあたっては、行政と所有者だけでなく、地域、企業、NPO法人などが参画し、協働のもと次世代に継承する体制が重要です。
- さまざまな主体が文化財に関わる気運を高めるためには、文化財を積極的に公開し、地域の歴史文化を正しく知り、触れる機会を創出することが必要です。
- 文化財を適切に保存する一方で、まちづくりや観光の資源として有効に活用していく必要があります。

【指定文化財一覧】

(H28.1.1現在)

種類	有形文化財								無形文化財	民俗文化財		記念物			計
	建造物	絵画	彫刻	工芸等	書跡	古文書	歴史資料	考古資料	芸能	有形	無形	史跡	名勝	天然記念物	
国宝	1														1
国指定	6		4	2		1				1		3		3	20
国重美		1			2										3
国登録	9														9
国選択											3				3
県指定	10	2	2	2			2					4		3	25
市指定	36	9	24	19	3	19	4	7	4	14	14	45	7	31	236
計	62	12	30	23	5	20	4	9	4	15	17	52	7	37	297

出典：上田市作成（文化振興課）

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（平成32年度）
市の歴史や文化財に愛着や誇りを感じる市民の割合	59.3% (平成26年度)	64%
歴史や文化を大切にしたい上田らしさを感じる市民の割合	43.4% (平成26年度)	47%

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護活動に参画します。 歴史的・文化的遺産の基礎資料を提供します。 伝統行事などに参加し、文化財を学習活動の場として活用します。
文化財所有者	<ul style="list-style-type: none"> 文化財を適切に管理します。
学校	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化などに関する教育を行います。
自治会	<ul style="list-style-type: none"> 伝統行事や体験学習などに参加しやすい環境づくりを行います。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護活動を支援します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 地域の歴史・文化を知る機会を創出します。 歴史的・文化的遺産の継承と活用の取組を推進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 地域の歴史的・文化的な遺産を継承します

①地域の歴史と文化を知る機会の創出

- 市誌編さん時の史資料の公開とともに、博物館、公民館、図書館などでの学ぶ機会の提供を通して、市民の学習・研究活動を促進します。
- 学校教育において、地域の歴史・文化・自然、優れた業績を残した先人などを教材とする学習を充実します。
- 市民が伝統行事などに参加しやすい環境づくりを進めます。

②市民協働による文化財の保存

- 地域の歴史的・文化的遺産などに関する基礎資料の収集、調査、記録保存を行い、文化財指定などを通じて適切に保管理します。
- 文化財所有者が行う修理をはじめ、市民や企業などが自主的に行う文化財保護活動を支援します。
- 伝統芸能の保存団体や指導者、後継者を支援し、団体間の交流促進も含め、地域に根ざした継承活動を促進します。

基本施策2 地域の歴史的・文化的遺産の活用を進めます

①市民協働による歴史的・文化的遺産の活用

- 文化財を市民の学習活動や文化活動の場として積極的に活用できるよう整備します。
- 地域の特色ある文化遺産を、まちづくりや観光の資源として活用されるようにします。

②文化遺産の継承と活用に関する基本構想の策定

- 総合計画に基づく個別計画として「上田市文化芸術振興に関する基本構想」を策定します。
- 文化財保護に関するマスタープランとして「歴史文化基本構想」を策定し、周辺環境も含めて総合的に保存活用する施策を進めます。

【VR上田城】

上田城跡を中心にかつての姿を仮想現実で楽しめるアプリを公開しています。右の二次元コードからアプリをダウンロードして楽しむことができます。



6-1-2 育成を基本理念とした文化芸術活動への支援と文化創造

「育成」を基本理念として、市民による地域に根ざした文化芸術活動を支援し、サントミュージーゼを核とする「文化の薫る創造都市」の実現を目指します。

現状と課題

- 文化・芸術はまちづくりの重要な要素であり、新しい時代に向けた文化振興策を総合的に展開していく必要があります。
- 子どもへの教育効果や経済波及効果など、まちの活力の源泉となる効果を多面的に引き出す事業展開が求められています。
- サントミュージーゼを拠点として、市民がさまざまな文化芸術に触れ、自らが参加し、文化芸術活動の主体者となるよう支援していく必要があります。
- 文化・芸術を通して、「人」、「文化」、「まち」が育まれる魅力あるまちづくりを目指すために、特に次世代を担う子どもたちを対象とする育成事業に取り組むことが重要です。
- 安定した財源を確保し、より質の高い芸術鑑賞の場を創り出していくためには、民間の企業や団体とのさまざまな連携が必要となっています。

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(平成32年度)
文化芸術に触れ、参加する機会に恵まれていると感じる市民の割合	32.8% (平成26年度)	40%

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> コンサート観賞や体験型講座に参加します。 文化芸術活動に取り組み、成果を発表します。 自らが企画運営に携わり鑑賞事業などを開催します。 市民サポーターやアーツスタッフなどとして、各種事業へ参画します。
幼稚園・保育園・学校など	<ul style="list-style-type: none"> 子どもアトリエプログラムや芸術家ふれあい事業などへ参加します。
地域・商店街	<ul style="list-style-type: none"> 文化芸術事業の受け入れや企画をします。
事業者など	<ul style="list-style-type: none"> 企業メセナ*などにより文化芸術事業を支援します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 「育成」を基本理念に市民による文化芸術活動を支援します。 魅力ある「鑑賞事業」「創造育成事業」「市民協働・情報発信事業」を展開します。



◇バレエワークショップ



◇市民参加による演劇事業

施策の方向性・展開

基本施策1 新たな「文化芸術振興に関する基本構想」を策定します

①基本構想を指針とする文化振興施策の展開

- 新たに策定する「上田市文化芸術振興に関する基本構想」に基づき、総合的かつ計画的に文化芸術振興を推進します。

基本施策2 文化芸術活動などを支える団体や人材を育成します

①青少年の文化芸術活動の充実

- 伝統芸能などの文化芸術を体験できる環境を整えるとともに、子どもたちによる文化芸術の振興と継承を目指す関係団体の活動を支援します。
- 学校と連携を図り、質の高い文化芸術を鑑賞する機会を創出するとともに、体験・学習の機会を充実します。
- 特色ある文化芸術活動や地域行事への参加促進を図ります。

②市民による地域に根ざした文化活動や新たな創造への支援

- 広域連携による文化芸術活動を支援し、広域的な文化交流を推進します。
- 市民の文化活動の場として、既存の文化施設のほか、街かどや文化財などを活用し、地域の活性化につなげます。

基本施策3 サントミュージーゼを核とした文化の薫る創造都市の実現を目指します

①文化創造都市としての「創造育成」事業の推進

- 子どもと芸術家のふれあい事業、子どもアトリエの創作プログラム、お絵かきひろばの活用などにより、子どもたちの自由な発想、感性、創造力を育みます。
- 公民館などを会場に、地域ふれあいコンサートを開催し、身近に芸術を感じる機会を提供します。
- 市民が参加し自ら創造する体験型講座、創造公演を実施するとともに、絵画、木彫、版画、写真などの講座を開催し、愛好者の育成と拡大を図ります。
- 交流芝生広場や商店街などを使い、若手アーティストを発掘するフェスティバルを実施し、市民交流を深め、まちなかの賑わいを創出します。

②市民とともに歩む施設を目指す「市民協働」事業の推進

- サントミュージーゼ運営への市民サポーターの充実を図るとともに、実行委員会の一員として参加できる事業を展開します。
- ホール、舞台、美術館に関する基礎知識や専門知識を習得する講座を開催し、地域と芸術をつなぐ人材を育成します。
- 市民自らが音楽、美術、芸能など多方面の文化芸術活動の成果を発表できる場を提供、支援するとともに、文化芸術を通して交流し合う市民文化祭を開催します。

③魅力ある「鑑賞」事業の推進

- 企業との共催や企業メセナの受け入れに積極的に取り組み、より質の高い鑑賞事業を提供します。
- アンケートなどを実施し、魅力ある鑑賞事業や美術展覧会を展開します。
- 郷土作家の顕彰と作品展示によって郷土愛を育みます。

6-2-1 上田の魅力発信、選ばれる都市づくり

上田市の持つ「人・食・文化・産業・情報」などの多様な魅力を向上させ、市内外にその魅力を発信していくことで「来たい・また来たい・住みたい都市」の実現に向けた取組を推進します。

現状と課題

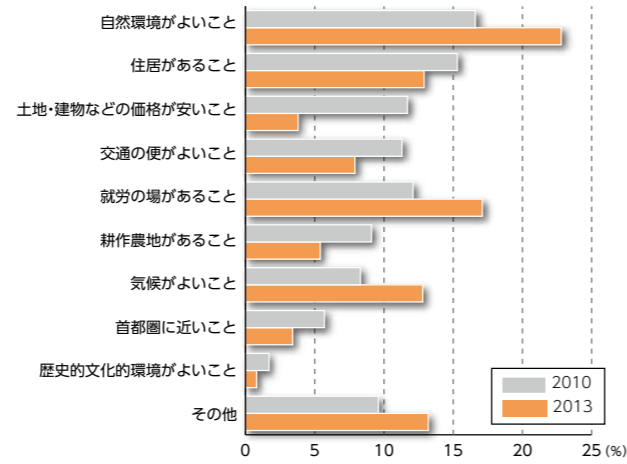
- 少子高齢化及び人口減少などの社会経済状況の変化に対応し、激化する地域間競争において優位に立つため、上田地域の「人・食・文化・産業・情報」を地域内外へPRする「(仮称)シティセールス推進指針」の策定が必要です。
- 2016年(平成28年)大河ドラマ「真田丸」の放送を契機に、幅広い分野に経済効果をもたらすため真田氏ゆかりの地としての「歴史と魅力」を生かしたまちづくりが求められています。
- 移住・定住を促進するため、仕事、生活、教育及び健康など多分野にわたって上田の「暮らしやすさ」をアピールしていくことが必要です。
- 若年層が移住を検討する上での懸念要素としていわれる就業について必要な支援策を講じるなど、移住者を呼び込むための関連施策を全庁的に展開する必要があります。

【移住者に「選ばれる地域」とは】

- 自然環境が良いこと
- 住居があること
- 就労の場があること
- 気候がよいこと

以上の4点を課題として捉えている移住者が多い傾向にある。とりわけ、施策として対応が可能な住居と就労に関する課題解決が重要であるといえる。

【移住地選択の条件と優先順位】



出典: 認定NPO法人 ふるさと回帰支援センター有識者会議資料

達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標(平成32年度)
空き家情報バンクを利用した移住・定住者の数	—	100人 (5年間)
空き家情報バンク成約件数	—	60件 (12件/年 5年間)

各主体に期待される主な役割分担

市民	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市の良さ・魅力を積極的にPRします。 ・移住・定住者の受け入れ態勢を整備します。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・真田氏ゆかりの地としての「歴史と魅力」を活用した各種商品の開発を行います。 ・移住・定住促進に向け、市が進める空き家情報バンク制度に協力します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・上田市の持つ多様な魅力を向上させ、市内外にその魅力を発信します。 ・上田市への移住・定住、U・I・Jターン支援を積極的に推進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 「来たい・また来たい・住みたい都市」の実現を目指します

- ①シティセールス戦略に基づく多様な魅力の発信
 - 「上田の魅力発信・選ばれる都市づくり」の推進に向け、「(仮称)上田市シティセールス推進指針」を策定します。
 - 庁内に「推進本部」を設置し、「人・食・文化・産業・情報」などのさまざまな上田の魅力を戦略的、効果的に発信するシティセールスに取り組みます。
 - 若者の多様な意見を生かす魅力的なまちづくりを進め、若者の定住を促進します。
- ②2016年(平成28年)大河ドラマ「真田丸」の放送を契機としたまちづくりの推進
 - 舞台となる上田地域や真田氏ゆかりの地としての「歴史と魅力」を全国に情報発信します。
 - 観光客の増加による幅広い分野への経済波及効果につなげます。
 - 真田氏ゆかりの歴史や文化に関する生涯学習の機運醸成を図ります。

基本施策2 移住に向けたシティセールスを推進します

- ①移住希望者への情報発信
 - 移住希望者の多様なニーズを把握した上で、大都市圏で行う移住相談会で情報を提供します。
 - 仕事、生活、教育及び健康などの上田市での暮らしに関わる情報をパンフレットやホームページ、PR映像などの媒体により発信します。
 - 空き家を提供したい人と空き家を利用したい人に対して相互の情報を収集及び発信する「空き家情報バンク制度」を活用し、定住人口の増加と空き家解消による地域の活性化を促進します。
 - 地域コミュニティへの橋渡しなどの支援を行う先輩移住者や地元住民・団体のサポート体制を充実し、移住希望者に向け助言していきます。
 - 就農を希望する移住者に、JAなどの関係機関を通じて農地に関する情報を提供するとともに、営農技術支援を含めた相談や受け入れ態勢を充実します。
- ②移住へと導く関連施策の展開
 - 移住希望者を対象に、市内の住宅物件の見学や生活体験ツアーを実施します。
 - 移住・定住コーディネーターを設置し、仕事や住居の確保、子育てなどさまざまな課題をサポートする相談体制を充実し、移住に係る負担を軽減します。
 - クラインガルテンなど一定期間上田市に住んで生活体験をすることができる施設の整備やプログラムを実施します。
 - 若年層や働き手世代をターゲットとして、U・I・Jターン希望者に働く場の紹介やスキルアップ研修など就労支援策を実施します。

6-2-2 交流・連携促進による地域の活性化

市内に所在する大学など高等教育機関との連携や広域的な市町村連携を促進し、地域の魅力や活力を高めます。

現状と課題

- 地方創生の取組において、地方への人の流れをつくる地方大学などの活性化、地域連携による経済・生活圏の形成の視点が掲げられています。
- 平成26年度の県内の大学進学者（高校出身者）の県外大学への進学率は84.6%で、若者の多くが県外に進学している状況です。
- 市内には、4つの大学・短大、複数の専修学校があり、多くの学生が学び、生活する「学生のまち」の特色があります。
- 大学などの専門知識や学生の若い力を地域の活

性に役立てるとともに、学生に卒業後も地域を支える人材として活躍してもらうことが重要です。

- 人口減少、少子高齢化を見据えた自治体経営として、各市町村が持つ機能や魅力を生かしあい、相乗効果を高めていく、新たな広域連携の重要性が高まっています。
- 上田地域定住自立圏の中心市として、生活圏をともにする構成市町村との連携を密接に図りながら、圏域をリードし、全体の発展を目指していく必要があります。

【市内4年制大学の学生数及び出身別割合（平成27年4月現在）】

名称	学生総数 (人)	内訳（出身別）					
		市内		県内（上田市外）		県外	
		(人)	割合	(人)	割合	(人)	割合
信州大学 繊維学部	1,214	37	3.1%	220	18.1%	957	78.8%
長野大学	1,251	172	13.7%	790	63.2%	289	23.1%

出典：上田市作成（政策企画課）

【上田地域定住自立圏（圏域7市町村）】



達成度をはかる指標・目標値

指標の内容	基準値	計画目標（平成32年度）
上田地域定住自立圏 取組事業数	58事業 (平成26年度)	65事業

各主体に期待される主な役割分担

市民	・大学などの公開講座に積極的に参加し、学びの成果を地域づくりに生かします。
学生	・地域づくり活動などに参加し、市民との交流や連携を深めます。
大学など	・多くの学生が集まるよう学校の魅力を高めます。 ・知的資源を地域課題の解決や地域の活性化に生かします。
行政	・大学などの魅力を高めるための支援をします。 ・大学などとの連携を促進し、地域づくりに生かします。 ・地域力強化に向けた広域連携を促進します。

施策の方向性・展開

基本施策1 大学など高等教育機関との連携による学園都市づくりを進めます

- ① **キャンパスと地域をともに元気にする支援と連携**
 - 高等教育に積極的に関わり、地元をはじめ全国から学生が集まる魅力ある学校づくりを支援します。
 - 子どもたちの育成や地域の活性化に向けた新たな連携の仕組みづくりや取組を進めます。
- ② **知の拠点を生かすまちづくりの推進**
 - 大学発ベンチャー*の創出や学生の柔軟な感性や活力を生かす地域づくり活動への支援など、地域課題解決の取組を推進します。
 - 大学などの公開講座情報を市民に周知するとともに、連携講座を開催し、市民の多様化・高度化する学習ニーズに対応する生涯学習プログラムの充実を図ります。

基本施策2 広域連携により地域力を強化します

- ① **長野、松本、上田トライアングル都市連携の推進**
 - 長野市、松本市との連携を推進し、共通課題への対応や地域活性化に向けた施策を展開します。
- ② **上田地域定住自立圏及び広域行政の推進**
 - 上田地域定住自立圏共生ビジョンに掲げる連携事業を着実に進め、行政経営の効率化を図り、安心して暮らし続けられる魅力あふれる圏域を形成します。
 - 圏域の情勢変化や課題を的確に捉え、各構成市町村の資源を有効に生かし、住みやすさや新たな魅力を創出する取組を進めます。
 - 上田地域広域連合の構成市町村とともに、地域医療、廃棄物処理、観光など、広域における課題解決や地域の活性化を図ります。
- ③ **国内外の姉妹都市などとの交流**
 - 国内外の各都市との交流の歴史を踏まえながら、地域資源を生かす魅力あるまちづくりに向け、市民レベルのさらなる交流促進や行政間、各種団体との新たな連携策を展開します。
- ④ **新たな価値を創る広域連携・交流促進**
 - 真田氏ゆかりの自治体、新幹線沿線都市、養蚕や製糸業にゆかりのある地との連携を強化し、観光や文化面での交流を促進し、地域経済の振興を図ります。
 - スマートウェルネスシティ構想*の実現を目指す全国の自治体と連携し、健幸都市うえだのまちづくりを進めます。
 - 教育再生首長会議*を構成する全国の自治体との連携を図り、子どもたちのより良い教育環境づくりを進めます。

【国内外の姉妹都市等の一覧】

呼称	都市名	提携年月日（提携時市町村）
友好交流都市	寧波市 中華人民共和国浙江省	平成7年2月9日（旧上田市）
友好都市	ブルームフィールド市 アメリカ合衆国コロラド州	平成13年5月24日（旧丸子町）
姉妹都市	ダボス町 スイス連邦グラウビュンデン州	昭和51年3月25日（旧真田町）
姉妹都市	鎌倉市 神奈川県	昭和54年11月5日（旧上田市）
姉妹都市	上越市 新潟県	昭和54年11月5日（旧上田市）
姉妹都市	豊岡市 兵庫県	昭和54年11月5日（旧上田市）
姉妹都市	九度山町 和歌山県	昭和52年5月4日（旧真田町）
友好都市	練馬区 東京都	平成6年12月1日（旧武石村）

